

Cバス南部路線10月から 白子と平田結ぶ、料金は100～300円

8月16日の市議会全員協議会で、検討が進められてきたコミュニティバスの南部地域での運行の内容が報告されました。ルートは2路線で、主な通過地は次のとおりです。

【白子・平田線】

白子駅西 - 稲生 - 御薊 - 三宅 - 国府台 - 八野 - 回生病院
- 住吉 - ハンター - 平田駅 - ベルシティ

【太陽の街・平田線】

太陽の街 - 秋永 - 稲生 - 塩屋 - 鈴鹿ハイツ - 道伯 - ハンター
- 平田駅 - ベルシティ

白子・平田線は1日7往復（2時間に1便）、太陽の街・平田線は1日6往復（2時間半に1便）、両ルートが交差する稲生F1マートで乗り換えができます。料金はF1マートを境に1区間100円、住吉にも区間境をもうけ、白子駅から平田駅まで通して乗ると、300円、太陽の街から平田駅では200円となります。

また、バスの車体やバス停などは西部Cバスと同様の方法です。10月1日からスタートの予定で、準備を進めます。

期待目標・1便平均18～19人は、達成できるか？

これから2年半を「実証運行期間」とし、その後に本格運行とする予定ですが、実証期間の利用者数の予測を1日約500人、1便あたり平均18～19人と、高い目に設定しています。評判の良い西部Cバスでも平均16人という実績ですから、これはちょっと楽観的すぎるのではと思います。

小泉自民党の暴走を止めよう！

8日衆議院が解散、日本中がいきよに選挙モードになりました。小泉首相は「郵政民営化」賛成か反対かが、今度の選挙の争点だと押し付けていますが、私たちは「4年間の小泉政治」の審判を下す選挙にしようと訴えています。「小泉政治で、いいことありましたか？」と。

多くの市民との会話で、選挙が話題になります。「小泉さんのあの味方もけちらすやり方は、こわいね」「ヒトラーでも、ちゃんと選挙で多数を取って政権をにぎったんですよ、うっかりあの手に乗ったら大変です」「なぜ郵政一本しか言わないんだ？」「アメリカのブッシュが『テロと戦う、賛成か反対か』一本やりで大統領選に勝った、そのマネですよ」「しかしなぜ、あんな好き勝手なことを言って、それが通っていくのかな」「バックに財界が付いているからです。国会解散も経団連の支持をえてからやったんです。

『財界直結』の政治にするには、派閥や族議員はもう邪魔だという点で一致しているんです。だから古い自民党はこわしても、アメリカと財界言いなりの政治はもっとひどくなります。」

庶民への増税とあらゆる負担増、憲法9条の改悪など、小泉自民党の暴走を許しては大変なことになります。「たしかな野党・日本共産党」の前進でかならずくい止めましょう。

8月臨時議会で、監査委員に島村氏えらぶ

16日に臨時議会が開かれました。議題は監査委員の選任、消防署の救急車の更新契約、そして急に決まった衆議院選挙の補正予算の3件で、どれも全会一致で議決されました。

任期満了となった監査委員の佐藤栄幸氏の後任には、島村御風氏が提案され議会は同意しました。島村氏は3月に市職員を退職したOBで、監査委員事務局長でした。仕事内容を熟知しているという点では「適任」と言えます。市の監査委員は3人で、市のOB、議会選出、公認会計士がその任についています。

衆議院選挙にかかる補正予算は4924万円で、全額国からきます。鈴鹿市でこの金額ですから、全国選挙費用合計は莫大なものになります。これは「民主主義の必要経費」ですからやむを得ませんが、選挙自体が民主主義にふさわしい結果になるように、頑張らねばなりません。

より市民に開かれた議会とは

新庁舎が年内完成、来年から業務開始という段階になりました。議会も新しい議場になり、次の3月議会からスタートします。いま「議会改革特別委員会」で、新議場での運営方法が議論されています。

対面・一問一答方式を導入、議論を活発化

これまで本会議での一般質問、議案質疑は、議員一人につき60分以内、回数は3回以内とされていました。これを改善して回数制限をなくし、また質問は壇上に上がってではなく、執行部と正面から向き合った質問席から行なうこととなります。ちょうど国会の予算委員会のような感じです。

質問の回数制限がなくなれば、言っぱなしの答えっぱなしという消化不良な議論がなくなり、テーマをより深めることが出来ます。また、いくつかのテーマをまとめて発言するのではなく、一つずつ議論することになり、聞いている人にもよく分かる、すっきりした問答になります。

一方、質問時間を会派人数に応じて配分しては、との意見も出ていますが、この方式では少数会派の質問時間が少なくなってしまうと思います。私は委員会の中で、「議会での質問は議員一人一人に保障されるべき。今でも年4回の定例会で一般質問1時間、合わせても1年に4時間しか質問できないのだから、これをさらに制限するべきではない」と主張しています。

同窓会でなつかしい面々との再会

8月14日、鈴峰中昭和42年度卒業生の同窓会が、約5年ぶりにありました。今回は私が幹事代表で出欠確認や名簿作成の仕事に当たりました。当日は40人ほどの参加でしたが、卒業以来37年ぶりに初めて顔を見せた者もいて、おおいに盛り上がりました。

いま「昭和30年代、40年代」「1960～70年代」が見直され、静かなブームになっていますが、私たちが子どもから青春時代にかけての時期にピッタリ重なります。まだ貧しかったが、なにか「明日は良くなる」という希望を持った時代だったと思います。また同級生などでも連帯感が強くあって、名簿を見ているだけで楽しい思い出と共に、一人ずつの顔が浮かんできます。次回は「卒業40周年」の年にしようかと相談しています。

ずいそう

この目で見えてきた靖国神社

8月11日、森川議員とともに日帰りで、東京の「靖国神社」と「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」を見学してきた。いま政治の場で、とくに教育の場で大きな争点になっている、60年前まで日本が行なってきた戦争をどう見るのかという問題の象徴である靖国神社について、「百聞は一見にしかず」、この目で実物を見てみようとしたのである。

地下鉄「九段下」駅から坂道を登っていくと、大きな鳥居の向こうに神社が現れる。社殿そのものは小ぢんまりしたものであるが、その横に「遊就館」という大きな展示館があり、ここに靖国の考え方が示されている。

「戦没者の慰霊」ではなく「英霊をたたえる」

宮司の「あいさつ」文に、この遊就館は「二つの使命」があり、「一つには『英霊顕彰』、二つには『近代史の真実を明らかにする』」と記されている。展示内容も、古代から近代までの戦争ばかりの連続であるが、中心は明治維新から太平洋戦争という時期である。

日本が明治以来「富国強兵」をすすめ、欧米列強を押しつけて朝鮮、中国そして東南アジア諸国を侵略し、ついに米英を相手にした太平洋戦争で敗北する、という歴史の過程を、ここではすべて「自存自衛」の「やむをえない戦争」と正当化している。まったく反省のことばもない異常さである。

戦没者の家族や戦友たちは、お墓参りのようなつもりでここに参拝するのだろうか。しかしこの神社は「慰霊」の施設ではなく、あくまで戦死者を「神」としてたたえ、ある民主党の国会議員のように「次の戦争ではかならず勝つ」などと誓う、ぶっそうな神社なのだ。英文では「War Shrine = 戦争神社」と訳されている、これが本質なのである。

靖国神社から歩いてすぐの所には、「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」がある。こちらは国が建設した「無名戦没者の墓」で、毎年海外で収集された遺骨が納められた「慰霊」のための施設である。靖国神社と違って軍人だけでなく一般邦人もいっしょに入っている。さる5月の拝礼式に小泉首相も参加しているが、これはニュースにもなっていない。靖国参拝の方が「国際問題」として大ニュースになるのは、その存在理由そのものが問題だからである。